

# 生涯学習の充実による心の育ちの推進 ・シビックプライドの醸成

- 1 第4次鹿屋市子ども読書推進計画について
  - ① 「親と子の20分間読書」運動の推進
  - ② 学校等での読書活動の推進
  - ③ 電子書籍(電子図書館)の推進
- 2 かのや風土記編纂事業について



# 令和4年度 生涯学習課グランドデザイン

鹿屋市教委  
生涯学習課

日本国憲法 教育基本法  
学校教育法 社会教育法  
県・大隅地区の教育方針  
鹿屋市教育振興基本計画

<鹿屋市教育振興基本計画：基本理念>

未来を担う心豊かで  
たくましい人づくり

鹿屋市総合計画

【基本目標3・5】

- 子育てしやすいまち
- ともに支えあい、いきいきと暮らせるまち

施策の  
方向性

- 心豊かな人間性を培う生涯学習の推進
- 開かれつながる社会教育の充実
- 文化の香り高いまちづくりと市民文化の振興・伝承
- 人権を尊重する平和な社会の実現

## 生涯学習の推進

★重点 ◎新規

### 【学習環境の整備】

- 生涯学習基本構想の具現化
- 大隅広域図書館ネットワークシステムの活用

### 【学習機会の充実】

- 各種公民館講座・出前講座等の実施
- ◎高齢者スマホ教室推進事業（予定）

### 【生涯学習推進体制の充実】

- 各地区生涯学習推進協議会の充実
- ★地域学校協働活動の推進
- 地域人材の発掘・情報共有・活用
- 社会教育関係団体の各種研修会



## 文化の振興・伝承

### 【文化芸術活動の促進と環境づくり】

- ★「親と子の20分間読書」運動の推進
- 第4次子ども読書活動推進計画の具現化
- ◎電子書籍推進事業（予定）
- 文化祭、美術展の開催
- 文化会館、リナシティ芸文学習プラザ自主文化事業の実施
- ★「かのや風土記」の編纂
- 学校舞台芸術鑑賞事業
- 市役所ロビーコンサート

### 【文化財の保存・活用・伝承】

- 岡崎古墳群整備事業
- ふるさとの文化を繋ぐまちづくり事業
- 埋蔵文化財緊急発掘調査事業



## 社会教育の充実

### 【地域の子どもは地域で育てる環境づくり】

- ★鹿屋寺子屋事業の拡充（目標35か所）
- 青少年育成市民会議、青少年育成推進大会の開催
- 鹿屋っ子クラブ（JLCの拡充）
- アドベンチャー事業の実施（市子連：屋久島、J.C：飯島）
- ★子ども会活動活性化事業「KOKAプロジェクト」
- 青少年育成センター事業（青パト、教育相談、青少年育成指導委員）
- 校外生活指導連絡会

### 【成人教育の充実】

- 社会教育委員の会議（1年次）
- 公民館運営審議会（1年次）
- ◎二十歳のつどい（新名称）
- ◎市PTA研究大会
- 社会教育関係団体活動促進対策事業
- 社会教育関係団体各種研修会等

### 【家庭教育の充実】

- 青少年育成・家庭教育講演会の開催（年1回）
- 家庭教育学級の開設（幼・保・小・中との連携）
- 子育て講座、保育体験等の実施
- ◎鹿屋市家庭教育支援条例の制定

## 人権の尊重

### 【人権教育の充実】

- 人権問題講演会の開催（年1回）
- 人権標語・ポスターコンクールの実施（作品展）
- 家庭教育学級等での研修機会の提供
- 出前講座「家庭からはじまる人権同和教育のすめ」の実施

## 第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画の概要



計画期間

令和4年度～令和8年度

## 第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画とは

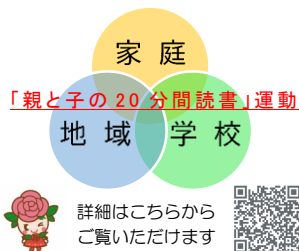
これまでの「鹿屋市子ども読書活動推進計画」期間の取組と課題を踏まえ、令和4年度からおおむね5年間にわたる鹿屋市の子ども読書活動の推進に関する施策の基本的方針と具体的な方策を明らかにするものです。



### 「親子の20分間読書」運動 ～親子のふれあいを大切にする家庭を～



鹿児島県立図書館長を務めていた棕鳩十氏が「教科書以外の本を子どもが20分くらい読むのを、母が傍らに座って、静かに聞く」運動を提唱し、「母と子の20分間読書」が始まりました。その後、昭和35年から鹿児島県が「親子20分間読書運動」として本格的に推進し、この運動は全国に波及していきました。鹿屋市では、この運動の原点や歴史を踏まえつつ、読書を通じて心をふれあう家庭が増えるなど、家庭教育の充実を図るため、全市的に推進します。



### 第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画の特色

- 「親子の20分間読書」運動を通じ、親子のふれあいを大切にします。
  - 共通実践事項の設定（朝読み夕読み、家読の時間、親子読書の日等）
  - 地域やPTA等との連携（運動推進PTAの委嘱、町内会での活動等）
- 発達段階に応じた取組により、読書への関心を高めます。
  - 成長に応じた「絵本カリキュラム」や「おすすめ本リスト」等の作成
  - 継続的に読書の興味・関心を高める取組の工夫
- いつでも、どこでも、だれでも気軽に読書を楽しめる環境を整備します。
  - まちなか図書館の設置場所の拡充（放課後児童クラブ、寺子屋等）
  - 電子書籍の導入（児童生徒のタブレット活用）及び移動図書館車の活用促進

### 鹿屋市の現状と課題

目標項目	令和3年度の目標値	現状	集計年度
1 児童生徒の家庭での1か月間の不読率	小 7.0% 中 14.0% 高 21.0%	小 8.7% 中 32.3% 高 53.6%	R3
2 児童生徒の家庭や学校での1か月間の平均読書冊数	小 24.0冊 中 6.0冊	小 20.9冊 中 6.0冊 高 4.0冊	R3
3 公共図書館（室）の児童書の貸出冊数	200,000冊	194,017冊	R2
4 学校図書館の児童生徒の貸出冊数	小 102.0冊 中 18.0冊	小 108.4冊 中 17.4冊	R2
5 図書の充足率 100%を満たしている学校図書館の割合	小 88.0% 中 92.0%	小 78.3% 中 83.3%	R3
6 ブックスタートへの乳幼児・保護者の参加率	100.0%	100.0%	R2

- ・家庭での不読率は学年が上がるにつれ、上昇している。
- ・低学年から本を嫌いだと感じる児童生徒がいることから、就学前から本とふれ合う習慣をつける必要がある。
- ・不読率が高い一方で、1か月に本を10冊以上読む中学生が30%、高校生が10%いることから、二極化の傾向が見られる。

### 第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方と達成目標



#### 第4次推進計画の基本目標と基本方針

##### 基本目標

子どもが読書の楽しさや喜びに出会う機会をつくり、自ら本に手を伸ばす子どもを育てる。

##### 基本方針

- 子どもが主体的に読書活動を行うことができるように、家庭・地域・学校が一体となり、社会全体でその推進に努める。
- 子どもが乳幼児期から発達段階に応じて読書に親しめるように、公共図書館（室）・学校図書館等の読書環境の整備・充実に努める。
- 子どもの読書活動の推進には、子どもに身近な大人が読書活動に理解と関心をもつことが重要であることから、その活動の普及と啓発に努める。



#### 令和8年度までの目標値

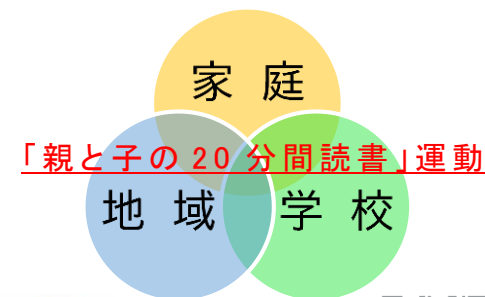
目標項目	現状	集計年度	令和8年度の目標値	
未就学児 ブックスタート事業の満足度	94.8%	R2	100.0%	
児童生徒	児童生徒の家庭での1か月間の不読率	小 8.7% 中 32.3% 高 53.6%	小 7.0% 中 26.0% 高 43.0%	
	児童生徒の家庭や学校での1か月間の平均読書冊数	小 20.9冊 中 6.0冊 高 4.0冊	小 25.0冊 中 7.0冊 高 5.0冊	
	公共図書館（室）の児童書の貸出冊数	194,017冊	R2	200,000冊
保護者	「親子の20分間読書」運動の認知度	61.4%	R3	100.0%
学校	本に親しむ取組の実施割合（朝読書等を除く。）	小 78.2% 中 58.3% 高 66.7%	小 86.0% 中 64.0% 高 73.0%	
	図書の充足率 100%を満たしている学校図書館の割合	小 78.3% 中 83.3%	R3	小 100.0% 中 100.0%



鹿児島県立図書館長を務めていた棕鳩十氏が「教科書以外の本を子どもが 20 分間くらい読むのを、母が傍らに座って、静かに聞く」運動を提唱し、「母と子の 20 分間読書」が始まりました。

その後、昭和 35 年から鹿児島県が「親子 20 分間読書運動」として本格的に推進し、この運動は全国に波及していきました。

鹿屋市では、この運動の原点や歴史を踏まえつつ、読書を通じて心をふれあう家庭が増えるなど、家庭教育の充実を図るため、全市的に推進します。



詳細はこちらから  
ご覧いただけます



## 第 4 次鹿屋市子ども読書活動推進計画の特色

- ① 「親と子の 20 分間読書」運動を通じ、親子のふれあいを大切にします。
  - 共通実践事項の設定（朝読み夕読み、家読の時間、親子読書の日等）
  - 地域や PTA 等との連携（運動推進 PTA の委嘱、町内会での活動等）
- ② 発達段階に応じた取組により、読書への関心を高めます。
  - 成長に応じた「絵本カリキュラム」や「おすすめ本リスト」等の作成
  - 継続的に読書の興味・関心を高める取組の工夫
- ③ いつでも、どこでも、だれでも気軽に読書を楽しめる環境を整備します。
  - まちなか図書館の設置場所の拡充（放課後児童クラブ、寺子屋等）
  - 電子書籍の導入（児童生徒のタブレット活用）及び移動図書館車の活用促進

## 第4次鹿屋市子ども読書活動推進計画の基本的な考え方と達成目標



### 第4次推進計画の基本目標と基本方針

#### 基本目標

子どもが読書の楽しさや喜びに出会う機会をつくり、自ら本に手を伸ばす子どもを育てる。

#### 基本方針

- 1 子どもが主体的に読書活動を行うことができるように、家庭・地域・学校が一体となり、社会全体でその推進に努める。
- 2 子どもが乳幼児期から発達段階に応じて読書に親しめるように、公共図書館（室）・学校図書館等の読書環境の整備・充実に努める。
- 3 子どもの読書活動の推進には、子どもに身近な大人が読書活動に理解と関心をもつことが重要であることから、その活動の普及と啓発に努める。



### 令和8年度までの目標値

目標項目		現 状		令和8年度の目標値
			集計年度	
未就学児	ブックスタート事業の満足度	94.8%	R2	100.0%
児童生徒	児童生徒の家庭での1か月間の不読率	小 8.7% 中 32.3% 高 53.6%	R3	小 7.0% 中 26.0% 高 43.0%
	児童生徒の家庭や学校での1か月間の平均読書冊数	小 20.9冊 中 6.0冊 高 4.0冊	R3	小 25.0冊 中 7.0冊 高 5.0冊
	公共図書館（室）の児童書の貸出冊数	194,017冊	R2	200,000冊
保護者	「親と子の20分間読書」運動の認知度	61.4%	R3	100.0%
学校	本に親しむ取組の実施割合（朝読書等を除く。）	小 78.2% 中 58.3% 高 66.7%	R3	小 86.0% 中 64.0% 高 73.0%
	図書の充足率100%を満たしている学校図書館の割合	小 78.3% 中 83.3%	R3	小 100.0% 中 100.0%

# おやこ 親と子の20分間読書

ぶん  
かん  
びく  
しよ

「親と子のふれあい」を大切に！

読書は、子どもが言葉や文字に触れ、豊かな感性や情緒の基盤を育むとともに、表現力を高め、想像力を豊かにするものです。

「親と子の20分間読書」運動を通じて、親と子のふれあいを大切にする家庭を築いていきましょう。



鹿屋市教育委員会

## 「親と子の20分間読書」運動

- ・家庭で子どもが声に出して本を読む。
- ・そのとなりで、家族がじっと耳を傾ける。
- ・読み終わったら、親子で本の内容について感想を言ったり、ほめたりする。

### 1 身近に本を置きましょう

子ども部屋にリビングに寝室に。家のあらゆる場所に本をおいて、いつでも、どこでも、誰でも気軽に本にふれあう環境をつくりましょう。



### 3 聞き上手な親になりましょう

親が興味をもって聞いてあげると子どもは喜びます。子どもの近くで静かに耳を傾け、読み終わったら、たくさんほめてあげましょう。

### 2 毎日続けましょう

読書を楽しみながら、長く続けることに意味があります。20分間にこだわらず、親子で毎日続けられるルールを考えてみましょう。（寝る前や宿題をはじめる前など）

【問い合わせ】  
鹿屋市役所 生涯学習課  
電話(直通) 0994-31-1138



本を話題にして親と子の心がふれ合う楽しい時間をつくりましょう

# 令和3年度 運動推進PTAの取組紹介

## 串良小学校

- ・親子読書リレー  
5月から1年間、週1回を目標に家族でリレー方式で音読
- ・読み聞かせグループ「こころのしずく」による読み聞かせ  
毎週木曜日授業前実施

## 東原小学校

- ・親子読書グループ結成し朝読時間で読み語り実施
- ・「親と子の20分間読書」推進部部会開催
- ・東原保育園と提携
- ・寺子屋と連携して学校図書館を地域開放
- ・寺子屋で子どもたちが地域の方に読み語り
- ・町の図書館ひがっばい便りを毎月地域に発行

## 笠野原小学校

- ・「親と子の20分間読書」の日を毎週実施  
合言葉「10分でもOK!とにかく取り組もう！」  
①子どもの音読を聞く ②親子で交互に読み聞かせ  
③好きな本を親子で読む ④好きな本について親子で語る
- ・読み聞かせグループ「ピノキオ」朝の読み聞かせ会
- ・みんな集まれ親子読書～読み聞かせ会～

## 大黒小学校

- ・毎月23日ファミリーバーコードで本を借り親子で読む時間を設定
- ・親子読書カードを記入してもらい、校内に掲示
- ・学校PTAの空き時間に、保護者を待つ児童に向けて読み聞かせを行う
- ・週に2回朝読書の時間に読み聞かせ
- ・親子レクレーションの中で読み聞かせ

## 鹿屋小学校

- ・バナナ文庫  
市立図書館より貸出（各学年30冊・学期ごと入替）
- ・読書月間・朝の読み聞かせ活動（6回中2回中止）  
年4回実施（各クラス2～3人×20分間）
- ・家庭読書週間  
毎月第3週家庭読書週間を設定し、各家庭で記録シートを記入  
毎月お知らせメールを配信し、活動を周知

## 吾平小学校

- ・「23日は親子読書の日」を含む1週間を親子読書と設定し、親子読書カードの記入・提出
- ・親子読書カードの図書室掲示
- ・学級PTAでの親子読書に関する話し合い

## 第一鹿屋中学校

- ・「読書推進の取組について」まとめたものを配布、活動を周知。
  - 保護者への貸出開始
  - 毎月第2土曜日「親子読書の日」設定
  - 親子で同じ本を読んで感想文を
- ・PTA 新聞に掲載
  - 夏休みに20分間読書を実践し、感想と気付いたことをまとめたもの
  - 「我が子に読んで欲しい本50選」を読んだ感想文

## 上小原中学校

- ・毎月23日「親子読書の日」に設定  
メディアをすべてオフにして、家族全員でそれぞれ読書を楽しむ時間を設けるよう、各家庭に通信等で呼びかけ  
生徒おすすめの本、保護者おすすめの本 等
- ・親子読書の日についてのアンケートを実施し、PTA新聞に結果を掲載

## 高隈中学校

- ・学校図書館で保護者の貸出し  
保護者1人につき1冊、貸出期間1週間
- ・学校だよりで本の紹介コーナーを作成
- ・Twitterで発信（週2回ペース）  
推奨本紹介、親子での読書に関する会話を促す
- ・給食時間に新聞記事を紹介、新聞や関連書籍を廊下に展示。
- ・各学年でおはなし文庫 Po 絵夢による読み聞かせ会を実施



# ③ 電子書籍(電子図書館)の推進

## 1 選書について

### ① 選書メンバー 電子書籍選書チーム

教育委員会(指導主事含む)、健康増進課、

子育て支援課 合計9名

鹿児島県立鹿屋養護学校(小・中・高等部教諭)

鹿屋市立図書館司書(5人)

学校図書館司書(26人)

### ② その他読書活動実践家等

松田 幸久氏(まつだこどもクリニック・絵本作家)

隈崎 和代氏(南部幼稚園・読み聞かせ)

杉本 正和氏(つるみね保育園)

倉掛 里美氏(イベント司会)

日野 尚子氏(児童発達心理)

森 夏子氏(児童発達心理・絵本作家)

宮地 秀作氏(霧島ヶ丘公園)

藏屋 留美子氏(報道・音楽)

原添 耕作氏(おおすみ観光未来会議)

### ③ 本の一例

鹿屋市にちなんだ本(ばら、カンパチ、ハンセン病)

ビジネス書、暮らし・料理の本、児童書読み放題、雑誌

(10月1日現在139タイトル)

## 選書内訳(冊数)

分類		ライセンス販売型	期間限定型	音声・雑誌等	計
一般	0 総記	17	4		21
	1 哲学	43	9		52
	2 歴史	28	23		51
	3 社会科学	66	18		84
	4 自然科学	67	12		79
	5 技術工学	127	15		142
	6 産業	34	5		39
	7 芸術美術	50	13		63
	8 言語	12	2		14
児童	9 文学	42	62		104
	K 郷土資料	129	30		159
	絵本(E)	12	12	100	124
	紙芝居(C)			162	162
雑誌				139	139
計		627	205	401	1,233

# かのや市電子図書館始まる

# 10月1日開始



鹿屋市は令和4年10月1日(土)から「かのや市電子図書館」サービスを始めます。電子図書館では、インターネットにつないだパソコン、スマートフォン、タブレット端末を使ってデジタルで作成した電子書籍を紙の本と同じように無料で検索・貸出・閲覧・返却できます。

## 電子図書館で読める本

子ども向け	絵本(読み聞かせ機能あり)、図鑑、漫画(学習補助)、ライトノベル など
大人向け	雑誌、ビジネス書、暮らし(料理、収納)、小説 など



▲雑誌や児童書などたくさんの種類の書籍が読める



# かのや市電子図書館とは



## どんなことができるの？

- いつでも、どこでも、だれでも本を「探す」「借りる」「読む」「返す」ことができます。

## 利用対象者は？

- 鹿屋市内にお住まいの方又は鹿屋市内に通勤・通学されている方が対象となります。

## 利用料金は？

- 利用対象者の方はどなたも無料で利用できます。

## 貸出冊数や貸出期間は？

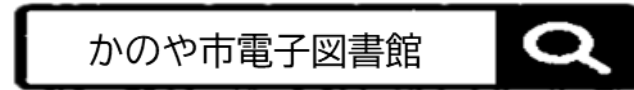
- 貸出冊数は2冊（市内小中学生は4冊）まで借りることができます。
- 貸出期間は15日間です。
- 予約点数は2冊です。

## どんな機能がある？

- 文字の拡大、背景色の変更
- 音声で読書が楽しめる
- サイト多言語化

# 電子図書館の利用方法は？

- ① お手元に鹿屋市立図書館「図書利用カード」を準備してください。  
(小・中学生は学校図書館「図書利用カード」でもログインすることができます。)
- ② お持ちのインターネットに接続したパソコン、スマートフォン、タブレット端末から下記の方法でアクセスしてください。
  - ・鹿屋市立図書館ホームページから
  - ・「かのや市電子図書館」で検索
  - ・QRコードを読み取る
- ③ 利用者IDとパスワードを入力し、ログインする。



▲QRコード



カード	ID	初期パスワード (8桁)
図書利用カード (市立図書館発行)	9桁の番号	生年月日 例)2005年5月8日生 「20050508」
学校図書館図書利用カード (市内小・中学生限定)		「0」を8桁「00000000」

- ④ 「借りる」ボタンを押して読むことができます。
- ⑤ 読みたい本が借りられている場合は「予約する」ことができます。

**注意**

- \* 図書利用カードは3年ごとの更新が必要になります。  
市立図書館または輝北・串良・吾平の図書室カウンターまで本人確認書類を持ってお越しください。
- \* 市外在住で鹿屋市に通勤・通学されている方は利用する前にカウンターまでお越しください。

# 電子書籍 貸出冊数

14,308冊(10月1日から12月21日までの間)

## 普及活動

### 学校への操作説明

#### ① サービス開始前

日時	学校	対象児童・生徒	人数
9月21日(水)	鹿屋女子高校	普通科2年	40
9月26日(月)	鹿屋養護学校	高校1年生	25
9月27日(火)	花岡学園	小5～中3	155
9月28日(水)	寿小学校	6年2組	34
9月29日(木)	上小原中学校	中1～中3	117
9月30日(金)	田崎小学校	6年	102
			473

#### ② サービス開始後

日時	学校	対象児童・生徒	人数
10月11日(火)	大始良小学校	5年2組	27
10月19日(水)	西原台小学校	3年	81
12月12日(月)	鹿屋小学校	6年	98
			206

# かのや風土記編纂事業

## -生涯学習を通じたシビックプライドの醸成-

### 【かのや風土記の発行】



#### 【基本目標】

- 郷土の先人や伝統・風土等のよさにふれ、郷土のすばらしさに対する思いを深めることができる価値ある資料をまとめた「かのや風土記」を編纂・作成し、きょうどを愛する心を育てる。

#### 【基本方針】

- (1) 鹿屋市民として「知っておくべき大事な歴史や文化」、「鹿屋に貢献した忘れてはならない人」などを中心に、鹿屋市の歴史、地理、自然、文化、人物などを中心として、「この1冊があれば、鹿屋を学べる・語れる」風土記とする。
- (2) 大人も楽しめる、中高校生向けの、市史の別冊版のようなものとする。
- (3) 図や写真を多く用い、分かりやすく、読みやすい、身近に感じられる風土記とする。
- (4) 市民と協働により編さんを行うことで、市民が愛着の持てる風土記とする。

#### 【公開方法】

- B5 カラー刷り 200ページ程度 初年度 1,500部(書籍及びインターネット上で公開)  
配布先 小・中・高等学校、市内生涯学習施設・その他の市内公共施設等

大タイトル	番号	中タイトル	頁
公民	1	市民憲章 市の将来像 鹿屋市の花・木・市章	1
	2	新しいまちづくり	3
	3	鹿屋市の人口・世帯数の変化 近年の人口・世帯数	5
	4	鹿屋市の財政 鹿屋市の財源	7
	5	まちづくりの基本目標 生活基盤他	9
	6	基本目標 産業 福祉 健康 人権	11
	7	基本目標 教育 文化 コミュニティー 生活基盤	13
	8	かのやしの風景100選(鹿屋市のPRする景色)	15
	9	かのやしの名湯100選(鹿屋市のPRする場所)	17
地理	10	鹿屋市の地質1 荒平海岸(荒平石)・細山田石(溶結凝灰岩)・くろぼく土	19
	11	鹿屋市の地質2 シラス台地、高隅山の花こう岩	21
	12	鹿屋市と桜島 (大正の大噴火と鹿屋 現在の桜島の灰とのかかわり)	23
	13	鹿屋市の気候 気候の特色と災害 鹿屋市の自然災害	25
	14	鹿屋市の植物1 鹿屋の山の自然植物	27
	15	鹿屋市の植物2 鹿屋市の野草	29
	16	鹿屋市の動物1 高隅山の野鳥や動物	31
	17	鹿屋市の動物2 川や海の生き物	33
	18	鹿屋市の地理的特色 市街地の形成と変化	35
19	鹿屋市の交通と運輸	37	
20	大隅線の廃線 日本一短かった駅	39	
21	鹿屋市の公園 霧島が丘公園(バラ園) 大隅広域公園 平和公園	41	
22	鹿屋市の農業1 畜産業 かのやブランドを全国へ(世界へ)	43	
23	鹿屋市の農業2 施設園芸・農産物 かのやブランドを全国へ(世界へ)	45	
24	鹿屋市の漁業 かのやカンパチを全国へ	47	
25	鹿屋のグルメ	49	
26	鹿屋の工業	51	
27	旧石器 ナイフ形石器 細石刃	53	
28	縄文時代 縄文時代早期(1万年前)の生活遺構 縄文土器	55	
29	弥生時代1 邪馬台国時代のムラ 王子遺跡 堅穴住居 弥生土器	57	
30	弥生時代2 土器標識になった遺跡 高付遺跡 吉ヶ崎遺跡	59	
31	古墳時代1 古墳時代の出土品	61	
32	古墳時代2 古墳時代のおほか	63	
33	奈良・平安・鎌倉 中央と鹿屋市	65	
34	室町・戦国 肝付氏の支配から島津氏へ	67	
35	江戸時代 野町 浦町 麓 としての発展	69	
36	近代1 学校の創立から太平洋戦争へ	71	
37	近代2 シラス台地とのたたかい	73	
38	近代3 人々の願いと努力による高隅ダムの完成	75	
39	近代4 鹿屋市の学校教育 鹿屋市の社会教育	77	

## 目次(案)

大タイトル	番号	中タイトル	頁
文化	40	鹿屋市の神社1 中津神社 七狩長田貫神社 菅原神社	79
	41	鹿屋市の神社2 八幡神社 鶴戸神社	81
	42	鹿屋市の神社3 諏訪両神社 利貫神社	83
	43	鹿屋市の神社4 万八千神社 月読神社 事代主神社 山宮神社	85
	44	鹿屋市の寺院1 玉泉寺 どん海庵 含粒寺	87
	45	鹿屋市の寺院2 浄福寺 法城山兩足寺 含粒寺跡	89
	46	鹿屋市の伝説1	91
	47	鹿屋市の伝説2	93
	48	鹿屋市の伝説3	95
	49	戦争の秘話「鹿屋から始まり、鹿屋で終わった」	97
50	鹿屋市の伝統工芸 竹細工 高隅の刀鍛冶	99	
文化財	51	鹿屋の民俗1 郷土料理 ぎっちゃんこ がね にしめ	101
	52	鹿屋の民俗2 郷土料理 そまげ ねっだぼ ふっのもつ	103
	53	鹿屋の民俗3 方言は地方の宝	105
まちづくり	54	鹿屋の文化財1 県指定有形文化財「短甲・衝角付冑」・「中尾地下式横穴墓群出土品」・「野里の田の神」	107
	55	鹿屋の文化財2 県指定無形民俗文化財「山宮神社の春祭に伴う芸能」・「王子町鉦踊り」	109
	56	鹿屋の文化財3 県指定 記念物「笠野原土持堀の深井戸」・「岡崎古墳群(4号・15号)」	111
	57	鹿屋の文化財4 市指定有形文化財1	113
	58	鹿屋の文化財5 市指定有形文化財2	115
	59	鹿屋の文化財6 市指定無形文化財1	117
	60	鹿屋の文化財7 市指定無形文化財2	119
	61	鹿屋の文化財8 市指定天然記念物1	121
	62	鹿屋の文化財9 市指定天然記念物2	123
	63	平和の花束 平和への願いと不戦の誓い	125
人物	64	鹿屋市美術展	127
	65	高校生ミュージカル「ヒメとヒコ〜ある王の物語〜」	129
	66	くしら桜まつりジョギング大会 輝北クロスカントリー	131
	67	かのやマウンテンバイカーズ CIELBLEU KANOYA	133
	68	宮下相撲 野里相撲	135
	69	鹿屋市内のお祭り1 バラ祭 かのや農業祭 黒土祭(串良農業祭)	137
	70	鹿屋市内のお祭り2 さくらまつり 二十三や市 あいら本市	139
	71	鹿屋市内のお祭り3 輝北農業祭 吾平農業祭 大隅湖レイクサイドフェスティバル	141
	72	観光1 ユクサおおすみ海の学校 かのやバラ園	143
	73	観光2 高隅登山 吾平富士トレッキング ウォーターパール館	145
74	観光3 輝北天球館 うわば公園	147	
75	観光4 大隅広域公園キャンプ場 大隅くん家	149	
76	鹿屋市との交流	151	
77	鹿屋市の地域づくり1 市内のコミュニティ協議会(鹿屋・吾平)	153	
78	鹿屋市の地域づくり2 市内のコミュニティ協議会(串良・輝北)	155	
資料集他	79	人物1【名誉市民①】	157
	80	人物2(3~4人)	159
	81	人物3(3~4人)	161
	82	人物4(3~4人)	163
	83	人物5(3~4人)	165
	84	人物6(3~4人)	167
	85	人物7(3~4人)	169
	86	鹿屋市の地図	171
87	鹿屋市の地質図	173	
88	歴史年表	175	
89	協力者一覧 参考文献	177	
90	編集委員 編集後記	179	

## 第2次 鹿屋市総合計画

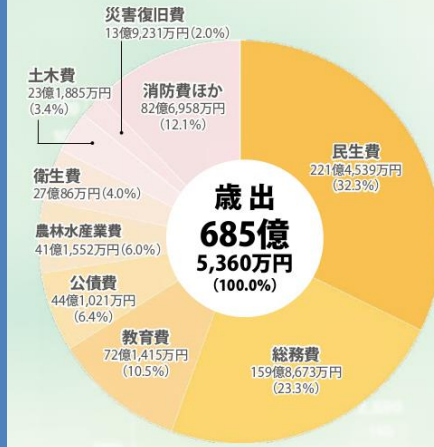
～第2期 鹿屋市まち・ひと・しごと創生総合戦略～



ひとが元気! まちが元気!  
『未来につながる健康都市かのや』



### ※写真



### 市役所本庁舎



### ※説明

### 和牛日本一のまちづくり

52年ぶりに本県で開催された第12回全国和牛能力共進会鹿屋島大会(通称 和牛オリンピック)で、本県から出品された24頭が、9部門6部門で首席を獲得し、出品区第4区の繁殖雌牛群については、本県が30年(島根大会以来)ぶりに種牛の部で、名誉賞に輝くなど「和牛日本一」という素晴らしい成績となりました。

特に本市から3部門で最高賞を受賞しました。その中でも、第6区総合評価群では、上別府種畜場の種雄牛「安亀忠」の産子で構成される種牛群と、同じ種牛の子牛を肥育した肉牛群で、最高賞を獲得したことは、今後の繁殖、肥育用の子牛購買や、枝肉市場において、引き合いが過熱することで、市場等活性化に寄与するものと期待されます。

今回の「和牛日本一の称号」を、今後の畜産振興はもとより、ふるさと納税や、焼肉店、精肉店等の活性化や、本市のPRに、「和牛のふるさと かのや」の活用を期待しています。

## 002 新しいまちづくり

鹿屋市は、「ひとが元気! まちが元気! 『未来につながる健康都市かのや』」をまちづくりの将来像に定め、第2次鹿屋市総合計画において、次の5つの基本目標を設定し、各種施策に取り組んでいます。

### ○基本目標1「やってみたい仕事ができるまち」

農林水産業や商工業の振興、雇用の促進。6次産業化等による高付加価値型農業への展開等に取り組むとともに、担い手の育成や生産基盤の整備等を行います。また、中小企業等の経営革新、創業や事業承継等への支援の充実、企業誘致に取り組むとともに、ICTを活用した柔軟な働き方を支援します。

### ○基本目標2「いつでも訪れやすいまち」

観光・スポーツによる交流や移住・定住の推進。本市の観光資源と豊かな自然や食、戦争遺跡等を生かした多彩なツーリズム等による魅力的な観光地づくりの推進、大隅4市5町の広域的な観光振興と誘客・交流人口の増加に取り組むとともに、スポーツ合宿の誘致や、自転車によるまちづくりを進めます。また、本市の魅力を最大限に活用し、移住・定住につながる取組を進めます。

### ○基本目標3「子育てしやすいまち」

子育て支援と教育の充実。子育てに対する不安や負担感を軽減する取組や、保育サービス・放課後対策の充実により、子どもを産み育てやすい環境づくりを進めます。また、未来を担う心豊かでたくましい人づくりを進めます。

### ○基本目標4「未来につながる住みよいまち」

生活基盤づくりや、安全・安心な生活の実現、自然環境にやさしいまちづくりの推進。多極ネットワーク型コンパクトシティを目指し、道路ネットワーク・公共交通の確保、雨水排水対策や適正な土地利用等を進めます。また、大規模災害や防犯への体制確保、交通安全や空き家の適正管理等の取組の充実、不法投棄の防止や生活排水対策等を進めます。

### ○基本目標5「ともに支え合い、いきいきと暮らせるまち」

地域福祉の充実や、健康・生きがいづくり、共生協働・コミュニティ活動の推進。地域コミュニティを育成し、公的な福祉サービスと協働して、安心して暮らし続けられる地域共生社会の実現に向けた取組、いつでもスポーツや文化活動、国際交流等に取り組むことができる環境づくりを進め、市民が生きがいを持って暮らせる社会づくりを目指します。

### 鹿屋市の財政

鹿屋市の平成の市町村合併後の財政を一般会計の決算で比較すると、歳入決算は合併時452億円であったのに対し、令和3年度は656億円で、204億円の増となっています。歳入で大きなものは国等から交付される地方交付税や国県支出金となっており、市税等自らの手で確保できる収入(自主財源)の合計の割合は30%~40%で推移しています。

歳入決算は合併時437億円であったのに対し、令和3年度は627億円で、190億円の増となっています。歳入で一番大きなものは福祉などに支出される民生費であり、合併時113億円であったのに対し、令和3年度は252億円で約2.2倍の額に増加しています。

今後の少子高齢化に伴い、さらに民生費の増大が予想されます。よって、持続可能な地域社会を確立するために、市税を中心とした自主財源の安定確保に努め、限られた予算を有効活用することが一層求められます。





# 桜島大噴火の記憶

※写真は広報かのみや 2018年5月号より引用

①牛根村(現在の垂水市牛根)から撮影された桜島大噴火



- ②火山灰が積もった杉林(高隈村付近)
- ③火山灰が積もった民家(百引村上百引)
- ④軽石・火山灰が積もった畑(同)
- ⑤火山灰で埋まった川に立つ人々(同)
- ⑥噴火後に起きた洪水で池と化した田地(西串良村細山田)

※①～④は鹿児島県立博物館『桜島大正噴火写真』

⑤～⑦は講話会編『大正三年桜島噴火状況(桜島爆発肝属郡被害始末誌)』から



## 石碑から見る大噴火

大噴火による災害は、溶岩や降灰のみならず、降り積もった軽石や火山灰が影響し、市内各地で洪水が起こりました。

記念碑は、爆発碑(3か所)、河川等改修碑(8か所)、耕地整理碑(3か所)、移住碑(1か所)の4種類があります。



①記念碑(輝北町上百引・岳野小学校跡)

大正15年3月に、百引岳野と牛根岳野が共同で建立。大噴火後、両岳野全体の世帯数が一時5分の1になったとされています。

②串良川改修記念碑(東串良町・豊栄橋左岸)

大正6年6月建立。大噴火で串良川の源流部が荒れ、土石流や洪水が頻発したため。西串良村と東串良村が連合組合をつくり改修しました。

## 012 鹿屋市と桜島

### 大正の大噴火と鹿屋

大正3年(1914年)1月12日、午前8時ごろから、桜島東側と西側の標高500m付近及び山頂から白煙が吹き上がりました。そして、10時15分、標高350m付近の谷間から黒煙が上がり、噴火が始まりました。約10分後には、標高400mからも噴火が始まりました。噴火口からは火炎と噴石が噴出し、その後、噴煙は7000～8000mの高さに達しました。桜島の噴火はしばらく続き、溶岩は斜面を流れ降り、西側の集落を埋めながら海岸線に達しました。また、東側の溶岩は集落を埋没しながら、幅360mの瀬戸海峡を閉鎖し、桜島と大隅半島は陸続きになりました。

当時、西寄りの風が吹いていたため、大量に噴出した軽石・火山灰は大隅半島を広く覆いました。特に肝属郡高隈村(現在の高隈町・下高隈町)、同百引村(現在の輝北町上百引・下百引)、曾於郡市成村(現在の輝北町市成・諏訪原)などでは、軽石・火山灰が厚さ約30cm、最も深いところでは1m以上積もるなど、辺り一面、灰色に埋め尽くされました。これらの噴出物で農地は長い間利用できず、農業は壊滅的な

被害を受けました。また火山灰が排水を妨げ路面が泥状化したり、噴出物で埋没したりして道路が寸断されるなど、市民生活に大きな影響を与えました。河川の上流では土石流や泥流による土砂災害が度重なり、中・下流ではその後も継続して洪水等が頻発しました。この大正の大噴火では、桜島を中心に死者・行方不明者58人、負傷者112人、全焼家屋2,148戸、全倒家屋113戸の被害が発生しました。

### 現在の桜島とのかかわり

現在、桜島のマグマの蓄積は、2020年代に大正噴火が起こる前のレベルまで戻るといことが推定されており、大正噴火級の大規模噴火への警戒が必要です。一方、観光面以外ではすっかり厄介者扱いをされている火山灰ですが、これを有効利用する方法もあります。灰そのものを缶詰にしたり、陶芸の粘土に練りこんだり、釉薬に混ぜて焼くなどの取り組みがされています。また、過去の火山灰が堆積してできたシラスについては、古くから研磨材として利用されてきましたが、現在では、シラスコンクリートや石鹸などに幅広く利用されています。火山灰の有効利用がより拡大されるようになると、桜島は宝の山になることでしょう。

## 噴火前の作付け状況と噴火後の作付け状況

桜島の大噴火による降灰は、鹿屋市の農作物にも影響を与えています。野菜、花、たばこ、茶、飼料作物、果樹などに多くの被害をもたらしました。

昭和48年に制定された「活動火山対策特別措置法」に基づいて、鹿屋市では桜島降灰対策事業が進められました。これにより、野菜、花、果樹のハウス栽培が行われるようになりました。また、たばこや茶の洗浄施設が設置されたり、飼料作物のサイロ貯蔵や機械による刈り取りが行われたりするようになりました。

※サイロ  
農産物や飼料作物などを保存する容器



○ これらの歴史上の有名人物は、肝付とどのような関係がありますか。本文中からみつけてみよう。



○ 元弘の乱(げんこうのらん)は、鎌倉時代最末期、元徳3年4月29日(1331年6月5日)から元弘3年6月5日(1333年7月17日)にかけて、鎌倉幕府打倒を掲げる後醍醐天皇の勢力と、幕府及び北条高時を当主とする北条得宗家の勢力の間で行われた全国的内乱。

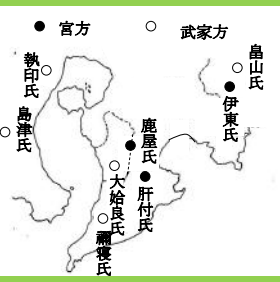
○ 北条 高時(ほうじょたかとき) 鎌倉幕府第14代執権

○ 後醍醐天皇(ごだいごてんのう) 第96代天皇および南朝初代天皇

○ 足利尊氏 室町幕府初代征夷大將軍

◎ 元弘(げんこう)の乱と肝付氏

尊氏は一度都での戦いに敗れ、九州に逃れるが、迎え撃ったのが菊池氏で、菊池氏を応援したのが肝付氏だった。この戦は尊氏が勝ち、尊氏は菊池氏、肝付氏をひどく憎んだ。菊池氏の所領を二木、一色氏を与え、肝付、伊東氏の所領を禰寝氏、執印氏に与えて、畠山直顕を日向の守護職においた。これが肝付氏の没落のはじまりだった。1337年、尊氏は後醍醐天皇が九州に逃げた。「旧記雑録抄」によると指宿に上陸した可能性が高い。その時、菊池氏、肝付氏が後醍醐天皇を助けて、足利軍を打ち破り、錦旗を賜ったと記録されている。南北朝時代各氏動向図(下)



034 肝付氏の支配から島津氏へ

元弘(げんこう)の乱において島津氏と肝付氏はともに後醍醐天皇を応援した。島津はその功績により、薩摩国に加えて、失っていた大隅国、日向国の守護職を賜った。しかし、中興の大事業が始まり、3年も立たぬうちに足利尊氏が反乱を起こし、島津氏は足利氏につき、肝付氏は後醍醐天皇についた。熱心に後醍醐天皇を応援していた肥後(熊本)の菊池氏と肝付氏は都から逃げてきた足利軍に大敗してしまう。機を悟ったのだろうか島津貞久は1336年5月、肝付家当主兼重の甥、肝付兼隆のおさめる百引の加世田城を攻撃し、島津対肝付の正面的な戦いが始まった。加世田城は陥落し、肝付兼隆は討ち死にしました。島津軍は高城を攻めたが、肝付氏が島津氏をしりぞけた。1343年には、島津貞久は一度宮方に降伏した。実はこれは宮方について日向、大隅を手中に収めた同じ武家の畠山直顕への牽制だったという説もある。一時は大いに勢威の上がった宮方もやがては衰え、肥後に落ち延びることとなった。畠山氏は禰寝氏に鹿屋を攻めさせた。畠山氏の勢いは止められず、大隅も次第に畠山氏の傘下に下ろうとしていた。ところが事態は意外な方向に動く、宮方とし

て奮闘していた菊池武光は1359年、宿敵である武家方畠山直顕を攻め、2年間で攻め滅ぼしてしまったのだ。島津氏は一兵も失う事無く、再び日向、大隅、薩摩三国の鎮護としての重きをなしていった。また、畠山氏が滅びると、島津氏はもはや宮家の庇護はいらぬとばかりに武家に転身し、足利家傘下に入った。元弘以来宮方のために力を尽くした伊東由祐は戦死し、野辺氏も衰え、島津氏の抵抗勢力は肝付氏だけになった。そして時代は動く。島津義久が島津氏の家督を継ぐと、北郷時久に肝付氏を攻略するように命令する。この時、肝付氏の当主は肝付兼亮だった。島津義久は大隅半島南部に支配を広げていた禰寝重長を味方につけ、北郷時久とともに高洲浦(現鹿屋市)で大小の舟を奪うなど知略ももちいて、肝付氏を攻めた。肝付氏は牛根城(現垂水市)を失い、廻(現福山町)と市成(現輝北町)を島津氏に差し出し降伏した。しかし、島津氏は執拗に肝付氏の領地を奪い、最終的には高山、始良、内之浦、岸良の支配のみを認められ、最後には高山以外のすべての領地を没収され、1580年に薩摩国日置郡阿多(現金峰町)に領地替えをされて、大隅半島からその姿を消すこととなった。しかし、肝付氏が大隅に残した痕跡、歴史、偉業は決して色あせないものである。

◎肝付氏の衰退と滅亡

元弘の乱終盤の大隅の状態という1339年、日向高城では肝付兼重が畠山直顕と戦い、鹿屋地方では禰寝氏の庇護下にあった武家方の大始良一族の勢力が強く、鹿屋氏を常に圧迫していた。その中であって、肝付氏当主兼重の弟、兼成は根占地方からの出口に当たる枢要の地であり、肝付氏の本拠である高山の地を死守していたが、禰寝氏、横山氏の連合が攻め落とした。兼成討ち死にを契機に、肝付氏の勢力は大始良から休息に後退し、代わって志布志にあった榑井頼仲の勢力が一気に鹿屋、大始良、花岡、高隈方面に進展し、また徐々に島津の勢力も大始良を足がかりとして伸びてくるようになった。



高山城跡

鹿屋基地1ビル



会談が行われた部屋（現在は解体）



金浜海岸に上陸するブルドーザー



上陸した米軍と挨拶を交わす陸海軍代表



鹿屋市の戦跡地図  
(ふるさとPR課 提供)



## ◎戦跡ガイドについて

鹿屋平和学習ガイド  
鹿屋市内には戦時中3つの海軍基地があり、日本で最も多くの特攻隊員が出撃したまちとして知られています。「鹿屋平和学習ガイド」は、平成27年に鹿屋市が正式に認定したガイドで、旅行ツアーや修学旅行などにおいて市内に残る戦争遺跡や歴史についてわかりやすくご案内します。

【対象人数や料金】  
個人や団体で料金が異なりますので、下記までお問い合わせください。

【連絡先】  
〒893-0064  
鹿屋市西原3丁目11-1  
鹿屋市観光協会  
TEL0994-41-7010  
FAX0994-41-6000

(関連サイト)



## 049 戦争の秘話「鹿屋から始まり、鹿屋で終わった」

鹿屋には海上自衛隊鹿屋航空基地があり、前身は1936年（昭和11年）設置の海軍佐世保鎮守府所属鹿屋航空隊です。日中戦争以降中国大陸や南方へ向かう軍事拠点として重要な役割を果たしてきました。そしてこの地は、日米戦争が始まるきっかけとなった「鹿屋会談」が行われた場所でもあります。

「鹿屋会談」とは、1941（昭和16）年連合艦隊司令長官 山本五十六の命を受けた、大西瀧治郎参謀長と源田 實参謀によって、「鹿屋基地1ビル」（写真左上・左下）でハワイ真珠湾への奇襲作戦が練られました。その密談が「鹿屋会談」と呼ばれています。それが「鹿屋から始まった」と言われている理由です。

ではなぜ「鹿屋で終わった」と言われているかというと、鹿屋市高須町の金浜海岸は1945（昭和20）年8月15日に日本が敗戦となり、9月4日に進駐軍アメリカ海兵隊が日本本土に初上陸した地（写真右上・右下）でもあります。その後、GHQによる日本の占領政策が始まっていきました。それが「鹿屋で終わった」と言われている理由です。

## 市内の戦跡

- 日本で最も多くの特攻隊員が飛び立った「鹿屋」
  - 鹿屋航空基地史料館  
…旧海軍や現在の海上自衛隊の貴重な資料を展示。
  - 桜花の碑・野里国民学校跡  
…人間爆弾桜花の神雷部隊が宿舎としていた場所。
  - 小塚公園  
…特攻隊908名の御霊をまつる慰霊塔がある。
- 特攻隊の足跡が残る 串良エリア
  - 串良基地跡の地下壕第一電信室  
…特攻隊が突撃前の送る電信を受信していた地下壕。
  - 平和公園（串良航空隊の航空基地跡）  
…滑走路跡の2本の直線道路は桜の名所でもある。
- 「戦後」が始まった地 高須エリア
  - 金浜海岸（進駐軍上陸地の碑）  
…1945年9月4日、日本本土で最初に進駐軍アメリカ海兵隊2500人が上陸。
  - 高須トーチカ  
…米軍の本土上陸に備えて海岸部に作られたトーチカ（陣地）。

## ◎戦跡資料紹介 弾薬集積所

鹿屋市郷之原町にあり、敷地約800㎡に、日本軍の250キロ爆弾315個や10キロ ロケット弾など78個など総重量226.7トンの爆発物が集められていた。1945年11月8日午前11時ごろ、爆発事故が発生。近くの2集落69戸が焼け、344人が家を失った。2020年、鹿屋市は米国立公文書館に保管されていた米軍の事故報告書を発見。日本人作業員が小型照明弾を誤作動させて大型照明弾に引火したのが事故原因としている。



米国立公文書館に残る爆発前の弾薬集積所の写真（ふるさとPR課 提供）



堂園棒踊り



生栗須棒踊り



王子町鉦踊り



## 055 鹿屋の文化財2

県指定無形民俗文化財

「山宮神社春祭に伴う芸能」

鹿児島県の無形民俗文化財に指定される山宮神社の春祭に伴う芸能は、この地域の五穀豊穡を願い、400年以上続いており、「正月踊り、鉤引き、田打」から成り立っています。

内容は神事のあと、堂園・生栗須・馬掛集落の棒踊りが奉納されます。歌い手は踊り子の後ろにタカビとともに、後山として付き椎木の枝を田手回しながら、「焼野のキジは丘の上に住む、山太郎蟹は川の瀬に住む」などの歌詞に合わせて勇壮に踊ります。

鉤引きは、雌鉤の股に雄鉤の鉤枝をかけてそれぞれの氏子たちが、その枝をもって歓声とともに引き合います。近年は二度勝負し引き勝った方が豊作になるといい、引き分けの際は双方が豊作になると言われています。

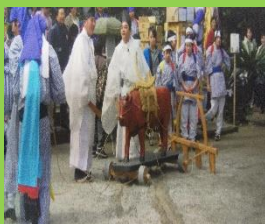
田打は、太郎(父親)と次郎(息子)に扮する神官が模型の牛に木製のワタイモガを引かせて、ユーモラスな所作をします。ニワトコ(庭常)の若芽を束ねたものともみ種を蒔き、観衆がそのもみ種を自家の田に巻き付けると豊作になると言われています。



馬掛棒踊り



鉤引き



田打

県指定無形民俗文化財

「王子町鉦踊り」

江戸時代の後期、宝暦3年(1753年)、当時の島津藩政時代は盛んに新田の開拓が行われ、王子町に築かれた和田井堰(わだいぜき)取水口から下流域約12kmにおよぶ鹿屋盆地に通水し、約150haにわたる開田を記念して生まれたもので、豊作祈念と水神祭を兼ね、毎年、旧暦8月28日に和田井堰の水神様に奉納している。

戦前、戦後は青年団を中心に集落ぐるみで継承していたが、青年団の衰退に伴い、平成2年4月に保存会を結成し、会員約100名で町内に長年伝わっている「鉦踊り」と「銭太鼓」を保存継承している。

王子町鉦踊りは、太鼓、鉦などを用いて「鉦踊り」とカラスが飛ぶような所作が特徴的な「からす舞」の2種類で構成されており、「鉦踊り」が先陣を作り、それを取り巻くように、円陣になって「からす舞」を踊る。

平成2年に鹿屋市無形民俗文化財、令和2年に鹿児島県指定無形民俗文化財に指定されました。





平和の花束2019セレモニー



ラジオ放送 朗読録音



記念誌

## 平和への願いと不戦の誓い

先の戦争において、我が国はもとより、多くの国や地域の、かけがえのない幾多の命が失われました。尊い命が失われたことや、家族を失った方々の悲しみ、そして、筆舌に尽くしがたい戦争による苦しみを体験された方々の辛い記憶や思いは、決して癒えることはありません。「二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。」何より、「平和を大切にしていかなければならない。」これは、私たちの共通する思いです。

鹿屋市には、鹿屋海軍航空基地や串良海軍航空基地のあったところであり、様々な戦争に関する思いや遺跡が残っています。戦後77年目を経た今日、私たちは、このような戦争遺跡や体験等を通して、それらに基づき平和への思いを世代を超えて受け継ぎ、より一層平和な世界を築いていく必要があります。



## 063 平和の花束

世界平和を願う児童・生徒の「平和へのメッセージ」を鹿屋から世界に向けて発信しその思いを届け、多くの人に平和や人権について考える機会を提供するという趣旨のもと、平成26年度から「かのや未来創造プログラム『平和の花束』事業」として、次の4つに取り組んでいます。

- 1 「平和へのメッセージ」の募集
- 2 「平和の花束」セレモニーの開催
- 3 本人の朗読によるラジオ放送
- 4 記念誌の作成

それぞれの内容の詳細については、次のとおりです。

- 1 「平和へのメッセージ」の募集  
小・中・高等学校の児童生徒から「平和へのメッセージ」を募集し、3部門（小学5・6年生、中学生、高校生）それぞれに最優秀賞者1名、優秀賞者3名、特別賞（空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会賞）3名を決定します。

令和3年度からは、英語部門を新設し、最優秀賞者1名を決定します。

「平和の花束2022」では、日本語部門に3925点、英語部門に1366点の応募がありました。

## 2 「平和の花束」セレモニーの開催

第1部では、「平和へのメッセージ」入賞者の表彰と本人による朗読、第2部では、「平和を考える」シンポジウムや講演等を行います。

令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となりましたが令和元年度には、「空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会」の四市（姫路市、加西市、宇佐市、鹿屋市）のつながりを生かし、それぞれの市の代表児童生徒が登場し、シンポジウムを行いました。

「平和の願いを語る一四市の子どもたち」と題し、各市の特色を紹介するとともに、それぞれが書いた平和へのメッセージの内容を基に、平和への思いを共有しました。

- 3 本人の朗読によるラジオ放送  
各部門の最優秀賞者1名及び、鹿屋市内小・中・高等学校の代表者1名の計40名による朗読を、毎週木曜日の12:55からMBCラジオで放送しています。
- 4 記念誌の作成

「平和へのメッセージ」入賞作品やセレモニーの取組などを掲載した記念誌を作成し、県内外の学校や教育委員会、協賛してくださった方々に配布しています。

## 平和のメッセージ

太平洋戦争末期に、日本で最も多くの若者が特攻隊員として飛び立ったこの鹿屋の地から、平和へのメッセージを発信する「かのや未来創造プログラム 平和の花束」は、平成26年度からスタートしました。

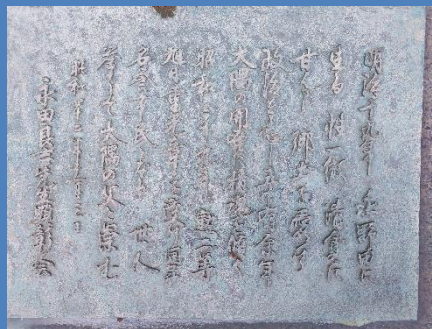
「平和の花束2022」において、小・中・高等学校から寄せられた平和へのメッセージは、九州管内及び兵庫県から4、061点の作品応募がありました。それらの多くの作品には、児童生徒が戦争遺跡や戦争体験談などに触れる体験を基に、戦争の事実や現代社会が抱える問題等と向き合い、平和や命の大切さについて考えたこと、平和な未来を創るために今を生きる私たちに何ができるか、といったことが自らの言葉で綴られており、児童生徒の平和への熱いメッセージを発信することができました。



永田良吉



科学航空大博覧会  
水族館や物産館、売店なども  
設けられていました。



市役所前にある胸像に埋め込  
んであるプレート

明治十九年 永野田に生る 性一徹  
清貧に甘んじ 郷土を愛す 政治を  
志し五十有余年 大陽の開泰に精魂  
を傾く 昭和三十九年勲二等旭日重  
光章を受け同年名誉市民となる 世  
人挙げて大陽の父と崇む  
昭和四十二年十一月三日  
永田良吉先生顕彰会

左記プレートの記載内容

### ○星塚敬愛園の誘致 (項目004参照)

#### ○飛行機代議士

永田良吉は早くから飛行機の重要性を認識しており、まずは大正11年県会議員時代  
に笠之原に民間飛行場を造成し、衆議院議員となった後も航空機の誘致運動を継続し、昭和11年(1936年)に鹿屋海軍航空隊の開隊にいたっています。

これは、彼の度重なる国への請願や協議によるもので、後に「飛行機代議士」や「請願代議士」と呼ばれるようになった所以です。

#### ○永田良吉に関する書籍

鹿屋市立図書館には永田良吉に関する書籍「永田良吉伝」永田良吉伝刊行同志会編集部編 が蔵書されています。貸出はしていませんが館内での閲覧は可能となっていますので、興味のある方は、是非、手に取ってみてください。



## 079 人物【名誉市民①】

### 【永田良吉】

大始良村会議員、大始良村長、鹿児島県議会議員、衆議院議員、鹿屋市長など、これらは、永田良吉が歴任した役職の一部となります。

海上自衛隊鹿屋航空基地、星塚敬愛園の鹿屋市へ誘致や高隈ダムの建設推進を行い、旧制中学校設置に尽力したなど、これらも彼が行った実績の一部となります。まさに、今の鹿屋市に続く政治・経済・教育等の基盤を作り上げた人物と言えます。以下にその活躍の一部を紹介していきます。

#### ○大始良村長時代

彼は大正2年(1913年)に若干27歳で大始良村会議員に当選し、大正6年には31歳で大始良村長になりました。当時大始良村の財政は会社でいうと倒産寸前の状態でしたが、彼は村の財政の為に養蚕業を奨励しました。その後、大始良には養蚕試験場が建設されています。(養蚕業は、その後の化学繊維の大頭により衰退していきました。)

#### ○鹿児島県議会議員時代

大正8年(1919年)に鹿児島県議会議員に当選しました。この時は、鹿屋への旧制中学校設置運動を展開し、大正12年に県立鹿屋中学校が開校しており、これが現在の鹿屋高校となります。また、大隅半島への国有鉄道敷設を推進していました。(項目〇〇参照)

#### ○鹿屋市長時代

昭和18年(1943年)に鹿屋市長に就任し、終戦後のアメリカ軍進駐地の交渉を、彼の機転により優位に進めました。その後、公職追放により昭和21年に一旦市長を辞職しています。

昭和31年に再び市長となり、昭和33年に科学航空博覧会を鹿屋校区基地内で開催、昭和34年には長年携わった高隈ダムが着工され昭和42年に通水しています。

永田良吉は昭和39年に鹿屋市長を引退し、同年鹿屋市初の名誉市民となりました。また、後年、藍綬褒章や勲二等旭日重光章を国から与えられています。昭和46年(1971年)84歳の高齢を全うしこの世をさりました。

#### ○私財を顧みなかった

これだけ、情熱的に鹿屋・大隅の発展に尽力した永田良吉は、西郷隆盛の「金も要らぬ、名も要らぬ清廉潔白、誠実一路」を地でいくような方で、自身の財については全く執着がなかったようです。

例えば、大正13年の衆議院総選挙に落選後は、母親がその借金苦でかなりの苦勞をしています。

また、最近では、お孫さんの話で、お孫さんが結婚後(昭和45年頃)嫁をつれて帰省した時、家のあまりのみすぼらしさに嫁が驚いたという話をされています。

永田良吉の活躍をみれば、悠々自適の余生を送っているはずなのに、何もかも人に惜しげもなく分け与える性分のために、自分の手元に最低限のものしか残していなかったのでしょう。